

教科	工業	科目名	建築計画	単位数	2
学科	建築科	学年	3 学年	履修区分	選択
使用教科書	建築計画(実教出版)				
副教材など	建築計画演習ノート				

科目の目的

- ① 建築の発達、歴史的な変遷現状などの習得をめざす。
- ② 建築の設計活動に深い関心と意欲を持ち、合理的かつ意匠的に計画し、実践できる能力と態度を養う。

授業の内容と進め方

本校では、講義のみの授業にならないように、教科書を理解させるだけでなく実験、実習科目と連携をとり各種資格試験の取得にもつながる知識を習得しています。

学習する上での留意点

単元ごとに、小テストを行います。各学期に中間考査・期末考査を実施します。

課題等について

単元ごとに、学習目標に達しない生徒には、補習を実施します。

成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技術	建築と環境、住宅の計画などに関する基本的な知識と技術を習得し、建築物を合理的かつ創造的に計画する力を身につけている。
思考・判断・表現	建築物の計画に関する課題を見だし、各分野の知識・技術を活用して、科学的な根拠に基づき思考・判断し、その解決策を的確に表現する能力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	建築計画の各分野に興味・関心をもち、環境に配慮した安全で快適な建築物を計画する力の向上を目指して、主体的に学習に取り組んでいる。

評価の方法

定期考査、提出物、授業中の演習問題、出席状況、授業態度等を総合的に判断して評価する。

《指導計画》 科目名 建築計画

3 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考查等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	第3章 各種建築物の計画 2 事務所の計画 ① 事務所の意義 ② 全体計画 ③ 各部の計画 ④ 防災・避難計画 3 小学校の計画 ① 小学校の意義 ② 全体計画 ③ 各部の計画 ④ 防災・避難計画	○事務所を単体の建築物ではなく、都市を構成する要素として認識させ、事務所の計画の基本を理解させる。 ○児童生徒や地域住民などが利用する小学校の特性とその計画、災害時の対応などについて理解させる。	小テスト 期末考查 (出欠, 態度等により総合的に評価する)
	5	第4章 都市と地域の計画 1 都市と都市計画 2 都市計画制度と都市計画法 3 建築と地域の計画 ① 地域の計画 ② 地域の空間構成 4 地域の計画とまちづくり ① 地域の計画とデザイン 期末考查	○都市計画に基づき、建築物を建築するときに必要となる基礎的な知識を習得させる。 ○地域に存在する建築物を建てる時に、地域や周辺に対し配慮すべき事柄を理解させる。	
	6	② 地域資源を生かしたまちづくり ③ 防災まちづくり ④ 景観まちづくり	○建築設備の目的、内容や、設備計画を行うにあたっての基本的な事項を示し、設備計画の重要性について理解させる。	
	7	第5章 建築設備の計画 1 建築設備の概要 ① 建築設備の目的と内容 ② 建築設備の基本事項	○各種建築設備の計画をについては、それぞれの設備の計画を行うにあたっての基礎的な事項を学習し、身近な設備や新しい設備などの具体例を挙げて理解させる。	
	9	2 給排水・衛生設備 ① 給水設備 ② 給湯設備 ③ 排水設備 ④ 浄化槽 ⑤ 雨水利用・排水再利用設備 ⑥ ガス設備 中間考查		
	10	3 空気調和・換気設備 ① 空気調和設備 ② 暖房・換気設備 4 電気設備 ① 電力設備 ② 照明設備 ③ 通信設備 ④ 防犯設備 5 防災設備 ① 消火設備 ② 警報設備 ③ 避難設備 ④ 避雷設備		
	11	6 搬送設備 ① エレベーター ② エスカレーター 期末考查		
二 学 期	12	第6章 建築の移り変わり 1 日本の建築(原始から近世まで) ① 住宅建築 ② 宗教建築 ③ 都市 2 西洋の建築(古代から近世まで) ① 古代の建築 ② 中世の建築 ③ 近世の建築	○今日の、そして明日の建築を創造していく基礎となる素養を育てるために、日本ならびに西洋の過去から現代にいたる建築の移り変わりの過程を把握させ、過去の建築がその地域や気候などの自然的条件や、政治や文化・生活などの社会的条件などと調和して、そこに住む人間の生活と感情を豊かなものにしたことを理解させる。	期末考查 (出欠, 態度等により総合的に評価する)
	1	3 近代の建築 ① ヨーロッパの近代建築 ② アメリカの近代建築 ③ 日本の近代建築 4 現代の建築 ① 世界の現代建築 ② 日本の現代建築 期末考查		期末考查 (出欠, 態度等により総合的に評価する)
	2	期末考查		期末考查 (出欠, 態度等により総合的に評価する)
三 学 期	3			期末考查 (出欠, 態度等により総合的に評価する)